

【3・4・5歳児の縦割り保育の目的について】

縦割り保育は、年齢の異なる子ども達が一緒になって遊び、関わる中で、年上の子が年下の子を気にかけて行動したり教えたり、年下の子は年上の子に憧れて真似をしたりします。子ども達は、遊びや生活を通して人との関わり合いを学び、生きていくために必要な力を身につけていきます。このような関わり合いが少なくなってしまった時代で、共に学び合い、成長し合うことを目的としています。



【縦割り保育の良さと配慮点】

縦割り保育の良さ

○年下の子と接することで年上の子が学べる

縦割り保育では、自然に年上の子が年下の子を気にかけて行動するようになります。そのような中で、年上の子は次のようなことを学び、身につけていきます。

- ・年上としての自尊心が芽生え、自尊心・責任感が育つ
- ・年下の子を配慮し労わることで、思いやりの心が育つ
- ・教えることで遊びが深まり、創意工夫するようになる
- ・年下の子を見守り、お世話をすることで忍耐力がつく
- ・年下の子に教えることで自分に自信を持つようになる など

○年上の子と接することで年下の子が学べる

年下の子にとって、いろいろとできる年上の子は憧れのお兄さんやお姉さんのような存在。そんな年上の子と接することで、年下の子は次のようなことを学び身につけていきます。

- ・年上の子に憧れを抱き、目標を持って意欲的に真似しようとする。(向上心が芽生える)
- ・年上の子に優しくしてもらうことで、自分自身も年下の子へ同じように接することができるようになる。
- ・自分のことを自分で行う年上の子を見て自立心が育つ など

○友だちの幅や居場所が広がる

年齢ごとの横割り保育では、同年齢の友だちが多くなりがちです。しかし、縦割り保育を取り入れることで、年上の友だち・年下の友だちをつくりやすくなります。そして、友だちの幅が広がることで、子ども達は自分の居場所を増やすことができます。



○クラスの状態が安定する

縦割り保育をすることで、年上の子は年下のお手本になろうと努め、年下の子は年上の子を目標として行動するため、自然とクラスの状態が安定していく傾向にあります。

○成長の差・個人差が表面的に目立ちにくい

幼児期は成長のスピードの差が出やすいものです。例えば、4月生まれと3月生まれの子とでは、発達状況が大きく違ってしまいます。しかし、縦割り保育では年齢の幅が広いいため成長の差が目立ちにくく、子どもの劣等感を和らげることにもつながります。



縦割り保育の配慮点

1、初期段階での配慮点

○4月は、大人も子どもも戸惑うことが予想されます。特に大人は慣れていくことに時間を要するかもしれません。保護者の不安を和らげるため、子どもの様子の共有やコミュニケーションを大切にしていきます。

○年齢別の関わりに慣れていない子は、初期段階で不安やストレスを感じることもあるため、気持ちに寄り添いながらフォローしていきます。

2、継続的な配慮点

○年齢が異なるため、年齢に応じた安全性の配慮をします。

○発達段階が異なる子ども達が集まるため、それぞれが楽しめる遊びや場所の選択肢を設ける工夫をします。

○年上の子が年下の子のお世話を義務化せず、自主的に関わられるような配慮をします。

○年齢ごとの活動も取り入れます。

